

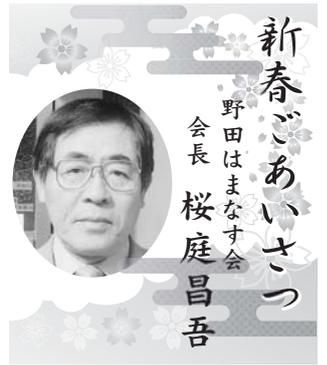


はまなす通信

発行 野田はまなす会
編集 野田はまなす会事務局
(野田村役場総務課)
☎0194・78・2111

野田はまなす会でも、去る3月、千葉県で行われた「全国中学生軟式野球大会」に出場した野球部を応援に行きました。柔

あけましておめでとうござい
ます。会員の皆さまには、さわ
やかな新年をお過ごしのことと
お喜び申し上げます。昨年は円
滑な会の運営のために、多大な
ご支援ご協力をいただき、誠に
ありがとうございました。役員
一同、心から感謝いたします。
さて、昨年暮れに、BS-T
BSテレビの「校歌を訪ねて」
で私たちの母校である「野田中
学校」の校歌と野田中学校や村
の様子が全国に放映されました。
登録会員には事前にお知らせし
ましたので、視聴された人もい
たと思います。何とも懐かし
く嬉しかったです。少しばかり感
想を記します。



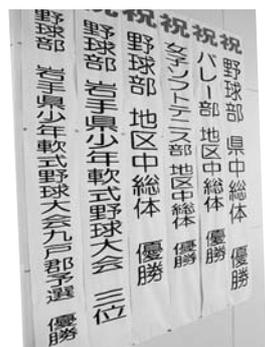
新春ごあいさつ
野田はまなす会
会長 桜庭昌吾



中学校の体育館に大きく掲示してある
言葉「野田村の太陽になろう」

野田はまなす会でも、去る3月、千葉県で行われた「全国中学生軟式野球大会」に出場した野球部を応援に行きました。柔

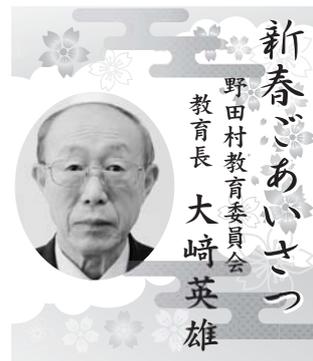
「太平洋のそよかぜ・胸に燃え立つ希・芳りあいて共にわれら」「和佐羅比山、山脈・うちに溢るる力・戒めあいて共にわれら」「水平線、さわやか・若き眉あげ誇り・励ましあいて共にわれら」
これは校歌にある歌詞の抜粋です。真剣に、真面目に、素直に、さわやかに、りりしく校歌を歌う生徒の姿に大きな感銘をうけました。子どもたちにはいい指導がなされているなど嬉しく思いました。菊地理校長の「3・11で全国各地からの支援に對して、今度は村民・生徒が頑張っている姿を県内外に発信していきたい。」の発言と野田中生徒の「野田村の太陽になろう」の合言葉のもと全校一丸となつて頑張っているとの言葉に心打たれました。説明する生徒、ピアノ伴奏の生徒、



学校に掲示してある垂れ幕

道では、数年前に会旗と手作りの横断幕を持って野田中出身の煤賀里恵選手を応援に日本武道館に行ったことも思い出しました。

平成28年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
「野田はまなす会」の皆さま方には、野田村の教育のため心温まるご協力とご支援を賜り、心から厚く感謝申し上げます。特に、平成27年3月21日、千葉県柏市の松葉球場で行われた第16回全国中学校軟式野球大会の時にはご多忙のところにもかかわらず球場に駆け付け、大声援をいただき本当にありがとうございました。26年度の新人大会を前にして野球部員が3名であった三崎中学校から依頼され、野田中学校の部員9名、合計12名で7月に合同チームを結成し、見事に岩手県代表として本大会に出場し、2回戦で京都地区代表に2対0で惜敗しました。



新春ごあいさつ
野田村教育委員会
委員長 大崎英雄

校歌を歌う生徒たち、本当に立派でした。野田中学校の若い後輩の成長した姿に大きな力をいただきました。
終わりに本年も野田村民と会員の皆さまにとつて平安で幸多い年でありますよう心よりご祈念申し上げます。新春のあいさつといたします。

3月24日、藤森晃希部長が小田祐士村長に「はまなす会の皆さんから応援をいただき、お陰様で普段の力を存分に発揮することができました。」と全国大会の報告をしました。



全国大会の報告をする藤森晃希部長

「野田はまなす会」の皆さんに改めて感謝とお礼を申し上げます。結びに「野田はまなす会」のより一層のご発展を心からご祈念申し上げあいさつと致します。

第3回役員会

平成27年度野田はまなす会・第3回役員会が、平成28年1月10日(日)正午から池袋駅東口の「土風炉」にて開催されました。会長から、次の報告と説明がありました。

- ① 県人会創立40周年記念誌が発行されたこと。
- ② 平成28年度の「岩手県人のつどい」が平成28年6月5日(日) 11時からホテルラング

ウッド(JR日暮里駅下車南口)で開催されること。次にふるさと納税の変更点について左記のとおり説明がありました。

- ① 納税額の特例控除限度額が住民税所得割額の1割から2割にあがったこと。
 - ② ワンストップ制度で申請書を野田村に出せば確定申告の必要がないこと。
 - ③ 寄附額から2千円を引いた額が、一定の上限まで所得税・個人住民税から控除されること。
- 続いて、野田村の情報として次のとおり説明がありました。
- ① 「校歌を訪ねて」で野田中がTV放映されたこと。
 - ② 明内に建設中のバイオマス発電所が夏頃から稼働すること。
 - ③ 久慈工業高校の統廃合が2019年に行われる計画があること。
 - ④ 新町(しんまち)では74区画で住宅建設中であること。他に元本会会長の佐藤匡宏氏の合同写真展が2月12日～18日に開催されることなどが説明されました。
- 討議では、日帰りレクリエーションの反省(親睦が深められて大変良かった)、役員改選(次回役員会で決定する)、平成28年度総会およびふるさと交流会(アトラクションとして懐メロなどの楽器演奏者を何人か招きたい)などが話し合われ、了承されました。
- その他では、次号のはまなす通信は2月上旬に発送できるよ

う、原稿執筆、紙面構成など進んでいる事が報告され、役員会終了後には引き続き新年親睦会がおこなわれました。



役員会の様子

日帰りレクリエーション企画 横浜 港の見える丘公園

平成27年10月4日(日)、野田はまなす会恒例の「日帰りレクリエーション」が、26人参加で実施されました。今年は神奈川県が担当で計画され、「横浜・港の見える丘公園」周辺の散策と中華街での食事会を行いました。

当日はからりと晴れわたり、レクリエーション日和でした。元町・中華街駅5番・6番出口に10時集合。屋上広場に移動して朝会。担当幹事の沢直人、奈川県幹事のあいさつがあり、志村副幹事の参加者紹介と見学コース・見学場所の説明後さっそく出発。「山手外国人墓

地」を横から見学し、高台の「港の見える丘公園」に着いて自由見学。順次、「横浜市イギリス館」、「山手111番館」に入館してたっぷり見学しました。その後、元町商店街を散策し、岩手県アンテナショップでお土産をどっさり買い込みました。お昼は、中華街にある「酔龍」というレストランで中華の昼食バイキングでした。飲み放題食べ放題で2時間30分の楽しい懇親会を持ちました。お腹いっぱい、情報交換いっぱいの満足した日帰りレクリエーションでした。



昼食懇親会の様子

野田村中心街などの復興の様子について

副幹事長
志村 良子

平成27年12月29日(火)～平成28年1月3日(日)で野田村に帰省しました。暖冬の影響か例年よりも寒さの感じが違い穏やかな年末年始でした。それでも初



再建した岩手銀行野田支店(本町)

野田中学校のグラウンドにある仮設住宅では「空室」表記が多くあり、災害復興住宅への転居待ちの人や建築中の戸建完成を待つ人たちが残っており、春頃にはほとんど仮設住宅から退去する見込みのようです。久慈工業高校の校庭の裏はかつて山でしたが、三陸復興道路や災害復興住宅建設のため、ここ数年でその山が削られ校庭からは海が見えるようになりました。

日、2日目は強風が吹き、町を歩く人は少なかったように感じました。買い物をする様子では、マミーストアへの集客が少々見られました。久慈市の大手スーパーの混雑ぶりと比べると野田村の年末年始の活気はあまり感じませんでした。初日の出を拝むため、今年は玉川鉱山に行きました。少し雲がかっていましたが穏やかな初日の出でした。田舎は空気がきれいと言いますが、それは本当だなと感じるほど美しい朝でした。

岩手銀行も場所が斜め向かいに移転しており、愛宕神社から海に向かう道路の景色もだいぶ変わっていました。新しい公園建設予定地も更地に整備されています。帰省する度に景色が変わっていく様子が見られます。もうすぐ東日本大震災から5年になります。道路や家屋といった街並みが変わり、着実に変貌を遂げています。



愛宕神社と国道45号線をつなぐ道路(旭町)



野田民俗誌との出会い

門前小路出身
野田中昭和32年卒

小田 克久

今から数年前になります、盛岡のあるビル先の古本店に何気なく立ち寄り、ふっと気が付くと目の前に「野田民俗誌」と

いう本があったのです。んっ、さっそく手に取り開いてみると、昭和53年野田村総合センター建設記念事業の一環として野田村教育委員会より発行されたものでした。

まず、目次に目を通してみると、明治・大正・昭和を通して野田村の住生活環境の変遷や先人方のご苦労や思いが幅広く記載されているようだ。：衣・食・住・子供と教育・宗教・医療・娯楽と生活の歌・年中行事・冠婚葬祭・生活雑記・農業・漁業・鉱業・製塩・商業・職人・交通通信・災害と消防団・伝説・方言ことわざ・方言と広範囲：早速買って持ち帰り読ませていただきました。野田村に住んでいた者にとっては、多くの事柄が身近に伝わってくる。「これはすごいよ、素晴らしい、いい宝物を授けていただきましたに感謝合掌、ありがとうございます。」野田民俗誌を入手して以来、野田村のことを思い出すたび、民俗誌を開くことが多くなる。その度に、総勢150人程の有志の方々の過去において、たくましく先人方(ご先祖)が築いてこられた民俗文化やこの地に培われた特徴的なものを発掘し、現在に呼び覚まし、学び、今に生かし、それを将来に向けて伝承していく、この過去・現在・未来へと縦糸を繋いでいく土台を構築すべく、今まとめ上げなければと、の一心の思いが伝わってくる。全精力を結集し東奔西走してまとめ上げられたそのご尽力には

頭が下がります。

野田村民俗誌には、大勢の方々の氏名がフルネームで掲載されているので、地元の方々やご縁のある方々が読まれる時より身近に感じ興味もまたひとしおであろうと思います。私も懐かしい人の名前を発見しました。「子供と教育」の章の中に明治から大正6年にかけて村外に出られた進学者の氏名が掲載されています。その中で、師範学校に進学された人の中に私の母方の祖父、橘丁丑が野田村で教職に着いていた頃の教え子の名前もありました。その人の墓は盛岡にありまして、お盆の時期には毎年お参りをさせていただいている人でした。第4章には次のようなことも書かれてありました。「一般に昔の先生は厳しかった。床の上に半日も正座させたり、廊下に立たせたまま帰ってしまう先生もあった」というようなことが書かれている。私は、その立たされたままの生徒たちはその後どうなったのか気になるのであります。私の場合、夜8時頃校舎の近くの舎宅に住まわれていた校長先生の校舎内巡回で発見され帰っていたのだのでした。脇道に逸れてしまいい失礼いたしました。宗教の章：八百万

の神々の祠の多さも目を見張る。なんと53カ所、先人方の真面目で清く信仰心の深さが伝わってきます。

このように、野田民俗誌は、生活風習や文化を伝えるのみならず、忘れかけたご縁を思い起こしたり、絆を深める仲立ちもしてくれるものと私には感じられます。

私の母方の祖母の祖母は野田村から嫁いでいましたので、私にも野田村のご先祖の血が流れています。そして、祖父母、両親、私たち兄弟と3代にわたってお世話になってきたんだなあと、思う時、感謝の思いが深まります。

歴史家トインビーは『自国の神話を12〜13歳の頃までに学ばなかった民俗は例外なく滅んで

いる』と言って、神話、文化、民俗史などの重要性を力説しています。

地方自治体の結集が国であることを思えば、その地域の故事や文化や徳目を学ぶことにより郷土愛が生まれ、さらに太いパイプとなって村の活性化、村興し、ひいては国家の繁栄の原動力へと繋がっていきけるのではないかと、思いが膨らんでいくのは果たして私だけでしょうか。この思いに馳せるとき、「野田村民俗誌」を子供からお年寄りに至るまで誰でも読めるように漢字にはふりがなを振り、難しい文言には注釈を設け、村外で生活している人たちと共に愛読していただけたら素晴らしいなあと思ったりしているところ

**平成28年度・野田はまなす会
ふるさと交流会**
および 総会開催のお知らせ

村出身の友人、知人を誘って、たくさんご参加ください。飲んで、食べて、村のことをいっぱい語り合しましょう！
村からは村長、村議会議長も参加します。

記
日時：平成28年6月19日(日) 13:00～
会場：東海大学校友会館(霞が関ビル35階)
首相官邸と国会議事堂が眼下に見える会場です。
会費：6,000円(交流会費)、2,000円(年会費)
※新卒者は無料でご招待します。

最寄駅(地下鉄)
銀座線：「虎ノ門」出口5番・11番 徒歩3分
千代田線・日比谷線：「霞が関」出口13番
丸の内線：「霞が関」出口A 4番
南北線：「溜池山王」出口8番
有楽町線：「桜田門」出口2番

■問い合わせ 野田はまなす会
会長 桜庭 昌吾 ☎090・9002・4356
事務局 野田村役場総務課 ☎0194・78・2111



「大唐の倉」

(文と絵) 桜庭 昌 (中新山出身・野田中昭和33年卒)



この絵は東日本大震災前の「大唐の倉」です。新山の須賀から眺める「大唐の倉」の風景は、野田を代表する最も素晴らしい景色の一つです。私の小学生の頃（昭和25年代）は、夏休みになると多くの子ども達が毎日のように「大唐の倉」が良く見える新山の須賀（砂浜）で、一日中水浴びして遊んでいたものでした。

この須賀は、かつては「野田塩づくり」に、その後はわかめ、昆布、鰯、小女子の天日干しに利用されていました。この頃は、野田漁港では鰯魚が盛んでした。漁師たちは砂浜にむしろを敷き、その上に、煮立てたばかりの鰯を手際よく広げ天日干ししていました。その香ばしい匂いで、食欲をかき立てられたものでした。この思い出深い須賀は、今はありません。今も昔も変わりなく見える「大唐の倉」ですが、

あの痛ましい東日本大震災の津波で、隣接する野田漁港の諸施設、漁船、漁具等全て流失しました。その時働いていた漁業者たちは「大唐の倉」に避難し、全員無事だったことを後で知りました。

「大唐の倉」とは野田湾に面した長根浜から久喜浜あたりを指して呼んでいます。長根浜は、1855年、今の「海蔵院」を開山した珊光国師達が中国から船での帰途、暴風で漂着した所と言われています。「大きな唐の国から来た珍しい宝物をたくさん積んだ倉のような船が着いた所」から「大唐の倉」と言われているのかも知れません。（野田村の歴史ものがたり）

帰省して、断崖で縞模様のある美しい由緒ある「大唐の倉」や野田漁港、和佐羅比山等の風景を堪能して、3・11後の復旧・復興の様子をご覧いただければと思います。

あとがき

▼平成27年の、この一年間の世相を表す今年の漢字に「安」が選ばれました。国民の色々な思いが込められているようです。

▼安保法案の「安」、円安の「安」、異常気象の不「安」、建築偽装でゆらいだ「安」全。昨年は一年を通してテロの不「安」がありました。フランス、パリでは129人が死亡した同時多発テロ、日本人2人が殺された事件もありました。ロシアの飛行機事故では24人も命が奪われました。世界の至る所でテロが発生しています。日本だけが安全とは言えない状況に不安が募ります。▼しかし、良いこともありました。日本から医学生理学賞の大村智氏と物理学賞の梶田隆章氏の2人のノーベル賞受賞者が出ました。

▼今年こそ、日本を始め世界のどこも安心安全で安寧な世の中でありませう。よつ願ひたいです。

(S.S.)